

## 【分配金のお知らせ】

2015年9月25日  
野村アセットマネジメント株式会社

**「バンクローンファンド(為替ヘッジあり)2015-06」の  
初回決算(2015年9月24日)の分配金について**

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

「バンクローンファンド(為替ヘッジあり)2015-06」(以下、ファンドといいます。)の初回決算(2015年9月24日)の分配金についてご案内いたします。分配金については、利子・配当等収益等の水準及び基準価額水準等を勘案し、以下の通り決定いたしました。

## 【分配金】(1万口当たり、課税前)

分配金額	決算日の基準価額	決算日の基準価額 (分配金再投資)
40円	9,834円	9,874円

\* 基準価額(分配金再投資)とは、当初設定時より課税前分配金を再投資したものと計算した価額であり、ファンドの収益率を測るためのものです。したがって、課税条件等によって受益者ごとに収益率は異なります。また、換金時の費用・税金等は考慮しておりません。

— 上記は過去の運用実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。 —

## 【分配の方針】

原則、毎年3月、6月、9月および12月の19日(休業日の場合は翌営業日)に分配を行ないます。

分配金額は、分配対象額の範囲内で、原則として、利子・配当等収益等の水準及び基準価額水準等を勘案し、委託会社が決定します。

\* ファンドは単位型投信であり、分配金に対する課税は、原則として、分配時の分配金の全額が対象となります。

\* 分配金は投資信託説明書(交付目論見書)記載の「分配の方針」に基づいて委託会社が決定しますが、委託会社の判断により分配を行わない場合もあります。また、将来の分配金の支払いおよびその金額について示唆、保証するものではありません。

**《分配金に関する留意点》**

- ファンドの分配金の水準は必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示唆するものではありません。
- 分配金は、預貯金の利息とは異なりファンドの純資産から支払われますので、分配金支払い後の純資産はその相当額が減少することとなり、基準価額が下落する要因となります。
- 計算期間中に運用収益があった場合においても、当該運用収益を超えて分配を行なった場合、当期決算日の基準価額は前期決算日の基準価額と比べて下落することとなります。

当資料は、ファンドの運用実績に関する情報提供を目的として野村アセットマネジメントが作成した資料で、投資勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料中の記載事項は、当資料作成時点のものであり、事前の連絡なしに変更されることがあります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。ファンドは、投資信託証券への投資を通じて、バンクローン等に実質的に投資します(また、外貨建資産に投資しますので、この他に為替変動リスクもあります。)ので、基準価額は変動します。したがって、元金が保証されているものではありません。ファンドに生じた利益および損失はすべて受益者に帰属します。

## 【(ご参考)設定後のバンクローン市場について】

バンクローン市場は、ファンド設定(2015年6月29日)直後の7月は、ギリシャの債務問題や中国株式市場の下落等によるセンチメントの悪化を乗り越え底堅く推移しましたが、8月に入ると米国の利上げが意識されるなか、中国人民元の切り下げを背景とした世界経済の先行き不透明感や、原油などの商品市況の下落等の影響を受けて軟調な展開となりました。8月下旬には、世界的に株式市場が反発するなど投資家のリスク回避的な動きが和らぎバンクローン市場に反転の兆しがみえましたが、9月下旬に独大手自動車メーカーの排ガス不正問題などを受けて再びセンチメントが悪化し、足元では軟調に推移しています。しかしながら、バンクローンは相対的に高い利回りであることや、変動金利のため米国の利上げの影響を受けにくいことなどの特性があることから、今後市場の落ち着きとともにその優位性が見直されることが期待されます。

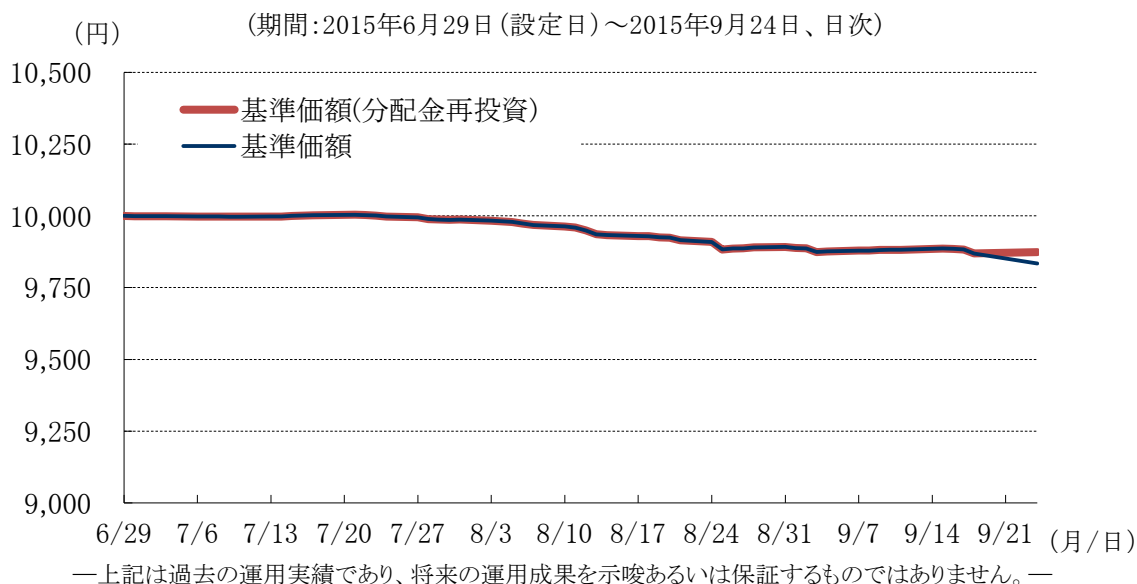
## 【(ご参考)今後の運用方針(2015年9月24日現在)】

(以下の内容は当資料作成日時点のものであり、予告なく変更する場合があります。)

米国では利上げ開始時期に対する不透明感は続いているものの、利上げのペースは遅くなると見られ、金利上昇も緩やかにとどまる見通しです。バンクローンの投資家や運用者は、米国金利の動向を注視していると思われませんが、足元では中国景気の鈍化懸念や軟調な商品市場動向を受けて、同市場も株式などのリスク資産と同様に、神経質な展開が続くと予想されます。

運用方針としましては、BB格からB格を中心に組み入れつつ、安定した収益の確保を目指す方針です。また、市場動向を見極めながら、石油関連事業セクターに加え、消費関連セクター等を注視します。相対的に割安な銘柄に投資を行ない、流動性や組入銘柄の信用力を考慮しながら分散投資とトータルリターンを強化していく予定です。

## 基準価額の推移



今後とも「バンクローンファンド(為替ヘッジあり)2015-06」をご愛顧賜りますよう宜しくお願いいたします。

以上